

植樹事業



みんなでチーズ！

大分市管工事協同組合青年部会は、全管連青年部協議会の仲間となって今年の12月で3年目に入りました。「水源地クリーンキャンペーン・エコクラブ探検隊」の事業参加も2回目となり、去年と比べ、参加者に対するアンケートや「森と水」についてのプチ教育等の、さらにバージョンアップされたものとなりました。

当青年部会は江藤宏行会長を中心として、平成17年度より総務・親睦・社会奉仕活動・全管連・視察研修と、活動内容別に五つの委員会に分かれています。

今回は、平成18年10月29日（日）に行われました大分市主催、大分県環境管理協会が協賛の植樹事業に、当青年部は環境問題研究事業「水源地クリーンキャンペーン・エコクラブ探検隊」の一環として参加しました。去年と同様、全管連委員会が中心となり、計画・準備・実施を行いました。

特に今年は、植樹事業参加者の一部に対して、森と水の関係について簡単なエコ授業「プチ教育」を実施するため、全管連委員会は植樹の前日からその準備にとりかかりました。テーマ

はやはり「森と水」についてであり、きれいな水が造られるために森が如何に関わっているかを皆さんに知っていただこうと、特に小学生に理解してもらおうと、資料作りに頑張りました。

当日は、お天気のほうも大変よく、みんな組合を出発して現地に向かいました。場所は大分市野津原で、JR大分駅から車



家族で楽しい植樹

大分市管工事協同組合青年部会

担当役員 尾形直樹

実施日 平成18年10月29日(日)

参加者 総勢111名

(内訳 青年部 21名 親会 50名 大分県環境管理協会 40名)

大分市青年部管連委員会で資料作成

で約25分の位置にあります。

大分市管工事協同組合71名(青年部21名含む)と大分県環境管理協会40名の参加者が現地に到着後、早速にプチ教育を開始、他の委員会の協力もあって大成功となりました。

そして、いよいよ植樹、親会の先輩方に植樹のノウハウを教えていただいたり、青年部の中には家族でこの事業に参加した者もいて、楽しくまた有意義な時間を持つことが出来ました。

アンケートのほうも、管工事組合青年部事務局が印刷等の前準備をしてくれたお陰で、より多くの参加者に対して実施・回収することが出来ました。

その全国統一アンケートの大分(おおい)の結果は、管工事組合・環境管理協会という参加者の特質上(日ごろ水と関わりの深い仕事についているので)「水の大切さ」に対する意識・認識は高かったです。しかし、「普段飲用する水」に関しては意外でした、九州大分は自然に恵まれきれいな水というイメージが強いのに、アンケートでは2割が水道水よりペットボトルの水を飲むという事実にはちょっとびっくりしました。

最後に、今回はより多くの子供たちの参加を求め、水の大切さを、水に携わる我々が伝えていければと思っています。



現地でプチ教育実施



親会も青年部も仲良く植樹

